

市政記者各位



2019年4月26日
福岡市博物館

「令和」の幕開け

福岡市博物館だからできる

担当学芸員による「古代と暦」の話

福岡市博物館では、6月9日（日）までの間、企画展「古代と暦」を以下のとおり開催しています。より展示内容を分かりやすくお伝えするため、5月2日（木）に、担当学芸員による第1回のギャラリートークを行います。是非、ご周知とともに、ご取材いただきますよう、よろしくお願いいたします。

◇ 発掘された資料と文献から暦の歴史にアプローチ！

福岡市内で発掘された木簡や土器、さまざまな文献から、暦の変遷に迫ります。福岡だからこそできる日本の暦の歴史を初期からたどる展示です。市内で出土した、干支で「年」を表記した木簡と元号で表記した木簡（右の写真）をならべて展示中、必見です!!

また、明治時代の太陽暦の採用まで視野に入れた展示は、幅広い時代の資料をあつまっている博物館ならではのものです。



太寶
(701年)
元
年



壬申
(692年)
年

▲（左・右ともに）元岡・桑原遺跡出土の木簡
*「太寶元年」=大宝元年

◇ あの「庚寅銘大刀」の復元模型も展示！

平成23年に九州大学伊都キャンパス内の古墳から発見された「庚寅銘大刀」(重要文化財)の復元模型を展示し、日本の暦の歴史のなかにおける位置づけを解説しています。

◇ もちろん「令和」も

「令和」の出典として注目が集まる『万葉集』や、中国の古典にみられる「令和」につながる資料も展示しています。

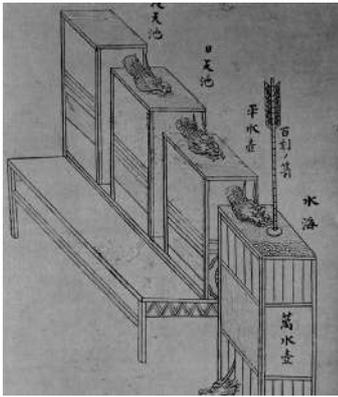
概要

「古代と暦」ギャラリートーク

- (1) 料 金 : 200円 (常設展示室共通料金)
- (2) 日 時 : 5月2日(木) 午後2時～
- (3) 会 場 : 博物館2階 企画展示室4
- (4) 担当学芸員: 学芸課 佐藤祐花(さとう・ゆか)
- (5) 参加方法 : 事前申込不要。

時間に合わせて直接会場にお越しください。

■お問い合わせ先
福岡市博物館 学芸課 松村
運営課 中村、岩倉
電話 092-845-5011 FAX 845-5019
〒814-0001 早良区百道浜 3-1-1



江戸時代に描かれた古代の漏刻
(昭和の絵葉書より)

古代と暦

平成31年4月9日(火)～令和元年6月9日(日)

企画展示室 4

はじめに

五月一日、令和元年として新たな時代が始まります。元号を古典籍からとるとは平安時代に既に通例となつていますが、新元号「令和」の典拠とされた『万葉集』の時代は、「靈龜」など、改元の契機となつた瑞祥そのものが用いられませんでした。ここでは古代の元号のはなしを出发点に、はるか長い間、時を区切つてきた暦について、現在の福岡の地に関わるものとともに紹介します。

一 暦のはじまり

日本の歴史書に初めて登場する元号は、西暦六四五年が元年にあたる「大化」です。しかし出土する木簡には、それ以降も「壬辰年」(六九二年)のように、元号ではなく干支で年が記されました。木簡に元号が書かれるようになるのは大宝元(七〇一年)年のことです。この年に制定された大宝令には、公文書に年を記す際に元号を用いること、中央官庁の一つである中務省の陰陽寮に暦博士・漏刻博士などの暦や時刻を掌る役人を置くことなどが定められました。大宝元年と書かれた木簡は、その制度が全国に速やかに浸透したことを教えてくれます。

律令が定められる以前については、欽明天皇一五(五五四)年、百濟から暦博士が派遣され、この時には「曆本」として暦の計算方法である暦法が持ち込まれたことがうかがえます。

この時期につくられた庚寅銘大刀(金錯銘大刀)は、九州大学伊都キャンパス

(692年)
壬辰年



(701年)
太寶元年



元岡・桑原遺跡群出土の紀年銘木簡
(墨書部分は各報告書の実測図より)

内(西区)の古墳から取り出されたものです。鉄刀に金で象嵌された「大歳庚寅」という文字は、出土状況と合わせて、暦博士がやってきて間もない、西暦五七〇年にあたるのがわかりました。国内で暦が使用された最初期の例となる資料です。

二 暦をきめる

五経の一つである『尚書』の「堯典」には「日月星辰を曆象し、敬みて人に時を授く」という一文があります。太陽や

月など天体の運行を観測し、そこから人びとに時(暦)を与えることは、権力の象徴であると同時に、天下を統治する者の役目でもありました。中国では日食の予測の正確性など、天体と暦のずれを調整するために頻繁に暦法が改良されました。

日本でも、租税の徴用、役人の交代などを全国的に滞りなく行うため、暦の普及が進められました。規定では、暦は前年の一月に中務省から天皇に進上され、その後、中央官庁や諸国に、年月日ごとの吉凶などが記された具注暦が一巻ずつ頒布されました。西海道(九州)を管理した大宰府には、宝龜五(七七四)年までに、都と同じく漏刻(水時計)が設置され、また、鐘や鼓を使つて人びとに時刻を知らせる守辰丁という役人も置かれました。福岡市域でも、柏原遺跡(南区)から「五月」と書かれた須恵器がまとまって見つかり、暦に基づく活動の様子があがります。

また庚寅銘大刀の銘文が依拠した元嘉暦をはじめとして、儀鳳暦、大衍暦、五紀暦、宣明暦の五つの暦法が平安時代までに採用されました。これらはいずれ



大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果練

(釈文) (復元模型) (実物)

庚寅銘大刀の象嵌銘文部分

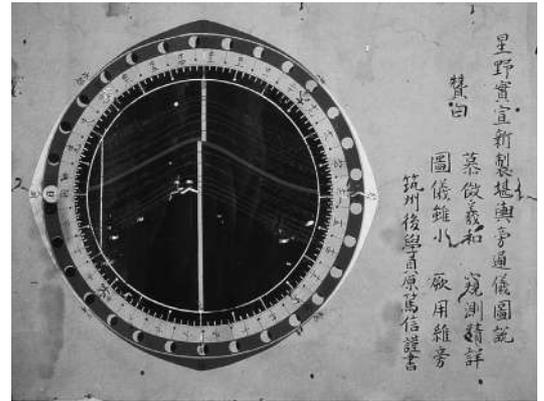
も、精度が上がる中国の暦法を積極的に学び、取り入れていったものです。

暦法を積極的に学んだもう一つの時代が江戸時代です。平安中期以降、造暦の職は世襲となり、学問的進展が見られませんでした。貞享二年（一六八五）年、渋川春海による貞享暦が日本独自の暦法として初めて施行されます。平安前期、貞観四（八六二）年の宣明暦以来八〇〇年ぶりの改暦でもありました。福岡藩でも文治政治が進められる中で、和算に長けた星野実宣が、月の満ち欠けを測定する堪輿旁通儀図説を製作しています。

古代から続く太陰太陽暦は明治六（一八七三）年、より精密で都合がよい暦法であるとして太陽暦が採用されるまで、長い間用いられてきました。



「五月」と書かれた土器／柏原遺跡（南区）・博多遺跡群（博多区）出土



堪輿旁通儀図説（部分）

三 曆にきく 曆を知る

古代に使用された太陰太陽暦は、年により日の数が変わり、一年が一三ヶ月になることもありました。人びとが日にちを把握するため、暦の意味は今以上に大きいもので、日にちのほかに様々な情報も記載された具注暦は、日々の行動指針にもなっていました。

例えば、方位の吉凶は方違の参考として用いられ、外出先の方位が悪い日には前夜に別の方位に行つて泊まり、改めて目的地にむかうこともありました。方違など暦をもとにする動きは『源氏物語』や『土佐日記』などに、当時の日常的な習慣としてみることが出来ます。

そのほか、一年の季節を知る目安となる二十四節気は奈良時代の儀鳳暦から存在し、卯月（四月）、皐月（五月）といった月の和名も、早く『古事記』や『万葉集』にみることが出来ます。平安時代後期の

具注暦には曜日も見えます。これらは江戸時代の太陰太陽暦の暦にももちろん、太陽暦になった今でもなじみがあるもので、一千年以上、暦に記載されてきたものなのです。

おわりに

日本の暦を古代から通してみると、私たちが使用する太陽暦は、時の区切り方としてまだ歴史が浅いものですが、カレンダーには、長く人びとの生活に根付き、暦の一部として用いられてきた語句をみることが出来ます。今回、典拠が初めて日本の歌集となった元号もその一つ。ぜひ元号だけでなく色々な言葉にも注目してみてください。（佐藤祐花）



方違は大將軍神ほか方角神がいる方角に向かうことを避けるため行われた。（『立表測景暦日診解』より）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	...	61
十干	コウ(カツ)甲	オツ(イツ)乙	ヘイ丙	テイ丁	ポ戊	キ己	コウ庚	シン辛	ジン壬	キ癸	コウ甲	オツ乙	ヘイ丙	...	コウ甲
十二支	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	...	子

主な展示資料

- ・庚寅銘大刀復元模型（原資料は元岡・桑原遺跡群G、6号墳／西区）
- ・「壬辰年韓鏡」銘木簡（元岡・桑原遺跡群7次／西区）
- ・「太寶元年」・「延暦四年」・「延暦四年計帳」・「五月十八日」・「自家三問子」・「嶋郡赤敷里」銘木簡（元岡・桑原遺跡群20次／西区）
- ・「寛治七年」銘木簡（香椎B遺跡寺守調査区／東区）
- ・「延暦十年」・「来七月十九日」銘木簡・「正月」・「七月」墨書須恵器（金武青木A遺跡1次／西区）
- ・「五月」墨書土器七点（柏原遺跡群M遺跡／南区・博多遺跡群84次／博多区）
- ・双鳳双獣八花鏡 博多遺跡群119次／博多区
- ・草花亀鏡文八稜鏡（吉武遺跡群9次／西区）
- ・草花蝶鳥鏡（箱崎遺跡群21次／東区）
- ・秋双鳥鏡（七反田遺跡／西区）
- ・鳳凰文柄鏡（戸原麦尾遺跡／糟屋郡粕屋町）

（以上、福岡市埋蔵文化財センター蔵 括弧内は、出土遺跡／遺跡所在の福岡市の区名等を示す）

- ・書経／紀元前／江戸時代／紙本墨摺
- ・日本書紀／養老四年／寛政二年／紙本墨書
- ・令集解二十八儀制／九世紀／天保四年／紙本墨書
- ・湖月抄 源氏物語「帚木」延宝元年／紙本墨摺
- ・土佐日記／一〇世紀／明治一六年／紙本墨摺
- ・堪輿旁通儀図説／元禄三年／紙本墨書
- ・天経或問註解／寛延三年／紙本墨摺
- ・立表測景暦日診解／文化六年／紙本墨摺
- ・農業花暦／慶応年間／明治六年／紙本墨摺

（以上、館蔵 順に、名称／原資料の成立年代／刊行年代／材質技法を示す）

※会期中に展示替えを行う場合があります。

《主な参考文献》

- ・暦の会編『暦の百科事典』新人物往来社
- ・一九八六年／渡邊敏夫『日本の暦』雄山閣
- ・一九九三年／福岡市教育委員会『九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査概報2 元岡・桑原遺跡群発掘調査』二〇〇三年／同『元岡・桑原遺跡群12 第7次調査報告』二〇〇八年／同
- ・「元岡・桑原遺跡群30元岡古墳群G、6号墳・庚寅銘大刀の考察」二〇一八年

福岡市博物館

〒八四一〇〇〇一
福岡市早良区百道浜三丁目一番一号
☎〇九二一八四五五〇一一